



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 数量経済分析センター長)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年10月20日)

ポイント

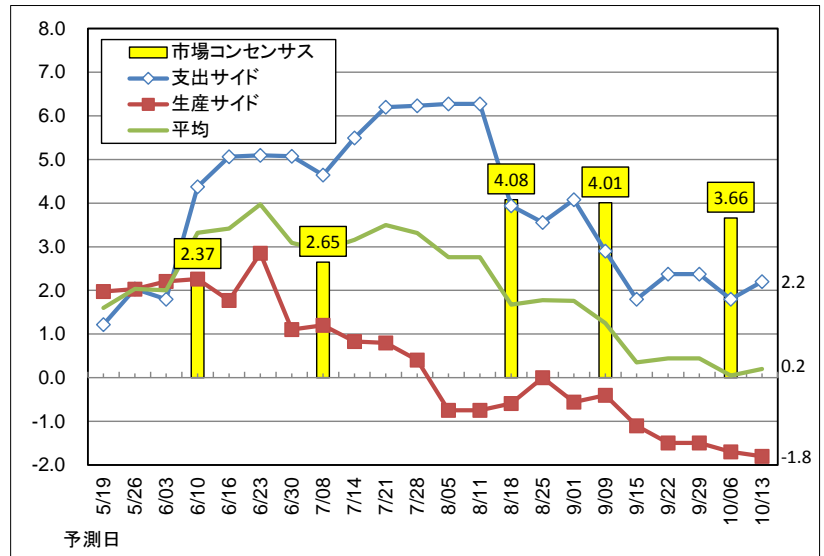
▶先週(10/13-17)更新されたデータは、民間企業設備、民間企業在庫品増加、公的固定資本形成、純輸出、主要デフレータ及び雇業者報酬の予測値に影響を与える。

▶民間企業設備、民間企業在庫品増加及び純輸出の予測値はいずれも先週から下方修正されたが、公的固定資本形成の予測値は上方修正された。

▶結果、今週の超短期モデル(支出サイド)は、7-9 月期の実質 GDP 成長率を前期比+0.6%、同年率+2.2%と予測。先週の予測から横ばいである。

▶7-9 月期成長率(前期比)への寄与度を見ると、公的需要は+0.3%と民間需要の+0.2%を上回る。一方、純輸出は+0.1%と小幅拡大にとどまる。実質成長率の半分超を公的需要が説明している。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<7-9 月期実質成長の半分超を公的需要が説明>

先週(10/13-17)更新されたデータは、9月の公共工事請負金額、国内企業物価指数、輸出入物価指数、8月の毎月勤労統計(確報値)、鉱工業指数(確報値)及び建設総合統計である。これらは、民間企業設備、民間企業在庫品増加、公的固定資本形成、純輸出、主要デフレータ及び雇業者報酬の予測値に影響を与える。

8月の資本財出荷指数(確報値)は前月比-6.5%低下した。実績は速報値を幾分上回ったため、7-9月期の実質民間企業設備の予測値は先週から小幅下方修正された。8月の最終需要財在庫指数(確報値)は同-1.5%となり6カ月ぶりのマイナス。実績は速報値を小幅下回ったため、7-9月期の実質民間在庫品増加の予測値は先週から幾分下方修正された。9月の輸出入物価指数が更新された結果、7-9月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。

8月の公共工事(季節調整値:APIR 推計)は前月比+3.4%増加し4カ月連続のプラス。実績は事前予測を上回ったため、7-9月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から上方修正された。

結果、今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質 GDP 成長率を前期比+0.6%、同年率+2.2%と予測。先週の予測からほぼ横ばいとなった。民間企業設備、民間企業在庫品増加及び純輸出の予測値はいずれも先週から下方修正されたが、一方、公的固定資本形成の予測値は上方修正されたためである。

7-9月期は内需が拡大に転じる(前期比+0.5%)。中身を見ると、公的需要の寄与度(同+0.3%)は民間需要のそれ(同+0.2%)を上回る。一方、純輸出は小幅拡大にとどまる(同+0.1%)。実質成長率の半分超を公的需要が説明している。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690